

【成長戦略課題候補】

ブドウ・モモの新しい窒素施肥基準の作成(R5~7)

果樹試験場

背景・ねらい

○土壤中の窒素による環境への影響

- ・温室効果ガス(亜酸化窒素)の発生
- ・地下水や河川への流亡 など

環境に配慮した施肥

○肥料価格の高騰

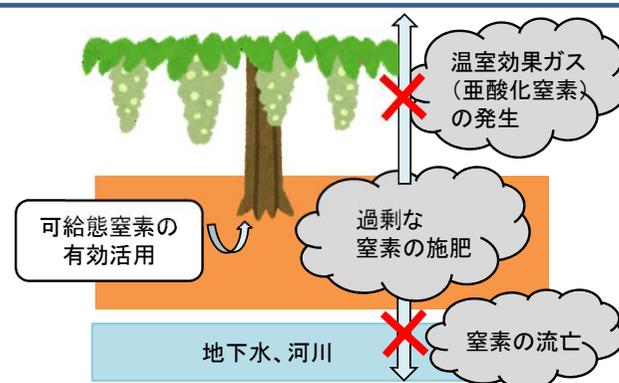
ムダのない施肥

○窒素施肥の現状

経験や生育から判断した「勘」で実施
→過剰施肥による収量・品質低下

過剰施肥の防止

→ **土壤中の可給態窒素を有効利用した施肥基準が必要**



※可給態窒素: 土壌に蓄積した窒素のうち、分解され植物が吸収できる窒素

研究内容

1年目

1. ブドウ園の可給態窒素を考慮した窒素施肥基準の作成
【調査品種】シャインマスカット、巨峰

・土壌と樹体間の窒素動態を調査
調査項目: 樹体の窒素吸収量、窒素の利用効率

2年目

・窒素動態から窒素の施肥量を検討

3年目

窒素施肥基準
を作成

2. モモ園の可給態窒素含量の実態把握
【調査品種】夢みずき

・現地調査ほ場の選定
(砂質土、埴壌土、火山灰土)

・施肥状況、可給態窒素含量、
果実品質などを調査

診断基準
を作成

期待される成果

- ブドウの新しい窒素施肥基準を作成
→環境に配慮した窒素施肥が可能
 - ・地球温暖化の抑制
 - ・環境への負荷の低減
 - ・ムダを省き、窒素施肥の効率化
 - ・「シャインマスカット」や「巨峰」の安定生産

- モモの可給態窒素診断基準を作成

窒素施肥の適正化

環境への配慮と
果実の安定生産ができる!

